

「第23回子ども自然体験スクールin沖縄の特徴」

今回の事業は山口県教育委員会、宇部市教育委員会、山陽小野田市教育委員会、山口県教育会、山口県ひとづくり財団、山口県 P T A 連合会、K R Y 山口放送、tys テレビ山口、yab 山口朝日放送、宇部日報社のご後援を頂き実施します。

さて、子ども自然体験スクールは単なる観光旅行ではありません。
子どもたちが6泊7日の体験教育を通して「21世紀を担う有為な人材を育成する」ことを目的としています。

この事業の第1の特徴は、明治の日本に新しい芽吹きを呼び覚まされた吉田松陰先生ならびにクラーク博士のお言葉と教えをメインテーマにしていることです。

【親思う心にまさる親心、けふのおとづれ何と聞くらん】 **Boys be ambitious.**

【学者になってはいけない。人は実行が第一だ】

【**Boys be ambitious.**】

「維新に学ぶ」「可能性への挑戦」などの講話を行い、ライフサイクルプランの作成を通して『人間としての生き方を学び、人様のお役に立てる人間になろう』を合言葉に生き方を探究する機会を設けています。

特にクラーク博士のお言葉「ボーイズ ビー アンビシャス」は、毎日「朝の集い」で原文を唱和し、子どもたち全員が暗唱できるようにしています。

Boys be ambitious. Be ambitious not for money or selfish aggrandizement, not for that evanescent thing which men call fame. Be ambitious for attainment of all that a man ought to be.

少年よ大志を抱け

(少年よ大志を抱け。しかし、金を求める大志であってはならない。利己心を強める大志であってはならない。名声という束の間のものを求める大志であってはならない。人間としてあるべき全てを求める大志を抱きたまえ。)

この事業の第2の特徴は小学校3年生から高校生までの年齢の異なった子どもたちが、生活を共にしながら、協力と思いやりの精神を体験として学ぶことにあります。

「小学3年生、しかも6泊7日はとても無理だ」と思われる保護者方もおられると思いますが、足手まといにはなりません。ホームシックで泣き出す3年生に6年生の子が「おれが面倒を見てやるから泣くな」と励ます姿をよく見かけます。そうすると、上級生は枕投げや喧嘩はできません。自らリーダーとしての自覚を持つようになります。

励まし合い、いたわり合いの7日間です。

異年齢間の交流ということでは、質量ともに望ましい姿がそこにあります。

たった7日間の生活で友となり、その後も手紙等で友好を深めている子どもたちがたくさんいます。

この事業の第3の特徴は、直接子どもの指導にあたる指導員が高校生や大学生であるということです。

指導員としてキャンプ協会やレクリエーション協会指導員、青少年育成アドバイザーなど同行しておりますが、子どもたちの前では直接指導しないというのが当事務局の方針です。

子どもたちは自分たちといくらも年齢が違わない高校生や大学生が、社会的に大きな責任を担

って小中学生を指導する姿に大きな感動とあこがれを持ちます。そして、自分も高校生や大学生になったら、あのように活躍してみたいと思うようになります。また、参加者は小学校3年生から中学3年生までですが、それぞれが班長や保健係や生活係などの役割を持ち、年相応の仕事があります。そして、高校生と大学生の指導員です。

子どもたちは、人のお世話をすることの喜びを自らの体験として学ぶ機会となります。

なお、高校生と大学生の指導員は全員、子ども自然体験キャンプやジュニア洋上スクールに参加したOBです。中には小学1年生の頃から参加し、指導員に憧れ活躍しているスタッフもいます。

この事業の第4の特徴は父母から子どもにあてた手紙を教材にしていることです。

『父母から子どもにあてた手紙』につきましては、事前に子どもには知らせないほうが効果的であるとの判断からパンフレットには記載していません。お手数ですが、保護者の皆様に〔お子様に宛てたお手紙〕を書いて頂くことが参加条件となっています。)

子どもたちが子ども自然体験上スクールに参加してから3日目頃には、研修生活にも慣れて自分の時間をつくる余裕ができたり、あるいは持て余しぎみになって父母や家の事を思い出したりします。そのようなとき、思いもかけなかった父母からの手紙が届けられます。

手紙には子ども自然体験スクールに参加させた目的、子どもにかかる期待や願い、誕生した時の様子や名前の由来、生き方の問題や人生観社会観が書かれてあります。

思いもかけなかった父母からの手紙は子どもたちの心に大きな感動をひきおこし、目に涙をしながら何度も手紙を読み返します。

「親が子どもに生き方を教える」最高の機会が演出されます。

子どもたちは感想文に「これからはお父さんお母さんを大切にします」「この手紙は一生の宝物です」と書きます。一時的な感動ではありますが、当事務局では人生の折り目、節目と考えています。

何年かたったとき、必ず、読み返し、感動を新たにするときが来ます。

【研修地での活動】

沖縄：野外炊飯、海洋研修（カヌー、ヨット、バナナボート、海水浴）、サンゴ風鈴やキャンドル作成、魚釣り、エコ・アドベンチャー（ハイキングを兼ねた環境教育）など。
また島内見学として「ひめゆりの塔」資料館、平和祈念公園「防長英霊の塔」、海軍壕、首里城、沖縄海洋博記念公園（美ら海水族館・オキちゃん劇場）などを計画しています。

講演 岡村：「可能性への挑戦（太平洋単独横断から学んだもの）」、「親子のきずな」

江藤：「先人の生き方に学ぶ」「未来を担う君たちに期待すること」

ライフサイクルプラン（人生設計図）：自己の可能性を認識させ、夢を持つことの大切さを育みます。

日程や研修：小学生低学年にも対応できる内容です。

指導員として経験豊富な青少年指導員、ならびに旅程を管理する添乗員、子どもたちの健康管理を行う看護師が同行します。